

全組合員一丸となって

南あおう 新小岩支新職場集会

※※※

新小岩支部は、国鉄をとりまく情勢が非常に厳しい中で、七月二十日、十二時より講習室において、本部より吉岡組織部長、関執行委員の出席のもと、組合員六十数名が結集する中で職場集会を開催した。

※※※

組合員、家族の協力で

家族組合を再建しよう

集会の冒頭、あいさつに起った松崎支部長は「動乗勤改悪については、当局、動労『本部』一体となって六月結着をはかってきたが、これを阻止して実質一年先送りすることができた。また、昇給協定の改悪についても提案してきたが、内容は非常に厳しい。さらにDL検修問題等、全組合員が一丸となって闘っていかねばならない。そして組合員の団結を一層強化するためにも、家族組合の再建は絶対必要であり、組合員・家族の協力をお願いす

る」と決意を表明した。
続いて、吉岡組織部長より、とりまく情勢と当面する闘いの方針が提起された。

★ 闘いの基本は、労働運動の原則を堅持して闘う中で、いかにして労働者階級としての利益を守るかである。

★ 「ゲリラ事件」を口実にした家宅捜査による組織破壊攻撃がかけられてきたが、断じて許すことのできない暴挙である。

★ 「動乗勤」を改悪し、乗務員の労働条件を私鉄なみに悪化させようとしていることに反対しなければならぬ。当面これを阻止した事は大きい。

な意義がある。

★ 「6・12デッチ上げ事件」については、不当処分攻撃がかけられようとしているが、処分させないために全組合員が決起しなければならない。

★ 59・2ダイ改は「貨物全廃」にむけた一里塚である。白紙撤回をめざし、全組合員が団結を一層固めて闘おう。

以上の点について提起されるとともに、これを全体で確認し、集会を成功裡に終えた。

支部通信員・発



勝利！ 闘争ジェット 塚三里 砕粉革・行 調臨

勝浦支部 ぎびしい情勢だからこそ 職場集会 原則的に闘うんだ

※※※※※

「6・12事件」を口実とした解雇処分・動労千葉の組織破壊攻撃が、権力・国鉄当局・動労『本部』革マル一体となり策動されている中で、勝浦支部は七月二十日、職場集会を開催し、不当処分攻撃・権利剥奪等に抗する闘いをより強化することを確認した。

※※※※※

国鉄労働運動解体攻撃と 対決して闘おう

集会には、本部水野副委員長も参加し、不当処分策動問題、「動乗勤」改悪問題や動力車基地削減のマスコミ報道等について質疑討論がなされた。

話し合いのなかでは

- ① 臨調・行革を推進する政府・中曽根内閣の軍事大国化・改憲の攻撃は、国内支配体制強化にむけた闘う労働組合の解体の狙いが根底にある。
- ② 昨年来の国鉄「赤字」の責任が、あたかも国鉄に働く労働者にあるかのようなマスコミキャンペーンに合

わせた、国鉄当局の職場規律の厳正、入浴規制「マル生協約」の一方的破棄等、強権的対応も国鉄労働運動解体にむけたものである。

③ 「動乗勤」改悪は、今日までの既得権の一切を強奪し、労働強化を強要し、要員合理化を目的としたものであり、これを許せば、その次の段階として「乗務員基地の統廃合」攻撃がかけられてくる。

- ④ われわれの職場を守るためにも、国鉄当局が行おうとしている「動乗勤」改悪をはじめとした合理化に対決していかねばならない。
- ⑤ 「6・12事件」を口実とした不当

解雇攻撃は、原則的に闘う動労千葉を解体するための策動と見すえて、あらゆる力を傾注して、絶対に粉砕しなければならない。
等の意見が出された。
集会参加者は、情勢が厳しければ厳しいほど原則的な闘いが必要であり、組合員一人一人が闘うことを確認し合い集会を終えていった。

支部通信員・発

8・8パイプライン供用開始粉碎、二期阻止、空港廃港、
総決起集会
8月8日、10時、千葉市みなと公園
主催 空港反対同盟・動労千葉